２０２２年度　第１回九大本番レベル模試（経―経工）　国語　採点基準

全問題に共通する基準

国語の答案ついては次のように採点します。

１　次の各項に該当するものは、配点はないものとし、形式上の不備として、その設問の得点から一箇所について１点ずつ減点します。ただし、配点を越える減点はしないこととします。

ａ　誤字脱字。同じ漢字を複数回誤っても同一の大問の中では２回目以降はカウントしないこととします。脱字は一箇所につき１点の減点とします。

ｂ　文を記述する設問で文末の句点の抜けている場合も脱字とし１点減点します。

ｃ　字数指定のあるとき、最後のマス目まで文字が書いてある場合も脱字とし１点減点します。

ｄ　字数指定のあるとき、最後のマス目に文字と句点を同居させている場合。これは本来字数超過で３ｂから０点とすべきですが脱字とし１点の減点に留めます。

ｅ　字数指定のあるとき、一マスに記述記号と文字を同居させたり、あるいは吹き出し用いたり二重線で消したりするなど、解答欄を不適切に用いたものは、原則としてそれぞれ１点の減点とします。

ｆ　不適切な文末処理。たとえば「…とはどういうことか？」という問いに体言で結んでいないもの。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなど。ただし、「ことである。」などの表現も「こと」で結んでいるものと認めます。また、「からである。」などの表現も「から」で結んでいるものと認めます。

※文末の処理の仕方について各大問・各設問で異なる指示がある場合があります。不問とする場合もあれば配点されている場合もあります。

２　日本語の表現として不適切なものは、減点対象となります。

３　次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を０点とします。

ａ　答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

ｂ　字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

ｃ　説明問題で、解答が途中で終わっているもの。

４　記述式の設問は、原則として採点基準に従い部分点を与えますが、本文の趣旨と採点基準の考え方からして誤りが認められる場合、配点の範囲内で減点される場合もあります。

一（評論）採点基準（合計＝６０点）

☆一・二の現代文の配点は、「内容点」（ＡＢＣ・・・）と「構造点」（ＸＹＺ・・・）で構成されます。また、内容点は各条件内に要素（①②③・・・）が３つ以上あり、得点がある場合、満点の範囲内で要素点が１点プラスされます。

問１　10点

（模範解答例）

Ａ①○３点　Ａ②○１点

十六世紀にヨーロッパとアメリカの諸部分に生じ、　やがて全地球を覆ってしまった、〈Ａ４点〉

Ｘ〈分析＝分けること〉→ＡとＢがあり、意味が成立していれば＋１点

Ｂ①○２点　Ｂ②○１点

今も、そしてこれまでもずっと世界＝経済であり、　資本主義的な世界＝経済であった〈Ｂ３点〉

Ｃ○１点　Ｙ〈総合＝まとめること〉→Ｃが○ならば＋１点

近代世界システム。〈Ｃ１点〉

（７点）

（内容【８点】＋構造【２点】＝10点）

【構造点】

☆Ｘは、傍線部を〈矛盾〉しない二条件であるＡ、Ｂに〈分析＝分けること〉して説明する構造への評価である。Ａ、Ｂの要素がそれぞれ少なくとも一つずつあればこの構造の骨組みが成立しているとみなして１点加点。

【Ｘ〈分析＝分けること〉　Ａの要素＋Ｂの要素　○＋１点】

☆Ｙは、条件Ａ、ＢをＣに〈総合＝まとめること〉する構造への評価である。Ｃがあればこの構造が潜在的に成立しているとみなして１点加点。

【Ｙ〈総合＝まとめること〉　Ｃ　○＋１点　→　Ｃが○なら内容点と合わせ、２点ということ。】

◎　採点のポイント

※内容点（８点）の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】Ｘ・Ｙ（各１点）は、右に示した要素を組み合わせた、あるいは、条件の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

Ａ「十六世紀にヨーロッパとアメリカの諸部分に生じ、やがて全地球を覆ってしまった、」〈４点〉

※　傍線部を説明するための話題提示の条件。

①　「十六世紀にヨーロッパとアメリカの諸部分に生じ、」（３点）

○「十六世紀に欧米の諸部分に生まれ」「十六世紀にヨーロッパの諸部分と両アメリカの諸部分に起こり、」

✖「十六世紀のヨーロッパとアメリカ」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

▲「十六世紀」もしくは「ヨーロッパとアメリカ（欧米）」のどちらかの成分が抜けていれば▲１点減点

②「やがて全地球を覆ってしまった、」（１点）

○「やがて地球全体に波及した」「全地球を包摂してしまった」などでも可○。

✖「全地球を覆う」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

B「今も、そしてこれまでもずっと世界＝経済であり、資本主義的な世界＝経済であった、」〈3点〉

※　傍線部を説明するための他方の条件（どちらかというと構造的＃共時的条件）。

①「今も、そしてこれまでもずっと世界＝経済であり、」（2点）

○「今までずっと世界＝経済であり、」「今に至るまで途切れることなく世界＝経済であり、」などでも可○。

✖「今までずっと世界＝経済」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②　「資本主義的な世界＝経済であった、」（1点）

○「資本主義の支配する世界＝経済であった、」「資本主義を土台とする経済世界だった、」などでも可○。

✖「資本主義的な世界＝経済」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

C「近代世界システム。」〈1点〉

※A，Bをまとめた条件。

✖「近代世界システム」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

問2　10点

（模範解答例）

A○1点

世界＝経済の内部には、〈A1点〉

B○1点

多数の政治的単位が存在し、〈B1点〉

C○2点

また異なる宗教、言語などを有する文化や人間集団が含まれるが、〈C2点〉

D①○1点

これらに一様性は潜在的にも実際的にも見出されえず、

D②○2点

したがって資本と労働の分岐のみならず基本的ないしは必要な諸財の交換こそが

D③○1点

このシステムを統合していること。〈D4点〉　Y〈総合〉　Dに○＋1点

X〈分析〉ABCの内2以上に○＋1点

（内容【8点】＋構造【2点】＝10点）

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、話題のAを、B、Cの〈矛盾〉しない二条件に〈分析＝分けること〉して説明してゆく構造への評価である。ここでは、〈A、B、C〉の三条件の内の二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

【X〈分析＝分けること〉　〈A、B、C〉の三条件の内の二つ以上　○1点】

☆Yは、B、Cをまとめて結論Dに持ち込む〈総合＝まとめること〉の構造を形成するとみなす。ここではDの要素が一つ以上あればこの構造の骨組みが潜在的に成立しているとみなして1点加点。

【Y〈総合＝まとめること〉　Dの要素　○1点】

◎　採点のポイント

※内容点（8点）の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y（各1点）は、右に示した、条件を組み合わせた、また要素の意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「世界＝経済の内部には、」〈1点〉

※傍線部を説明するための話題、もしくは「場」の条件。

○「世界＝経済においては、」「近代世界システムの内側には、」などでも可○。

✖「世界＝経済の内部」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

B「多数の政治的単位が存在し、」〈1点〉

※傍線部を説明すべく、Aについて説明してゆく一方の条件（政治的条件）。

○「緩やかに結びあわされた多くの政治的単位があり、」「多数の政治的単位が国家間システムを形成し、」などでも可○。

✖「多数の政治的単位の存在」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

C　「また異なる宗教、言語などを有する文化や人間集団が含まれるが、」〈2点〉

※　傍線部を説明すべく、Aについて説明してゆく他方の条件（宗教・文化的条件）。

○　「また宗教や言語や習慣を異にする文化的人間集団が含まれるが、」「また様々な宗教や言語を背景とする文化ないしは人間集団が内包されるが、」などでも可。

▲「異なる宗教、言語、習慣」のうち一つ以上の成分が入っていないと▲1点減点。

▲また「文化、人間集団」の内の少なくとも一つが入っていないと▲1点減点。

D「これらに一様性は潜在的にも実際的にも見出されえず、したがって資本と労働の分岐のみならず、基本的ないしは必要な諸財の交換こそがこのシステムを統合しているということ。」〈4点〉

※　傍線部を説明すべく、Aについて説明してゆく他方の条件（宗教・文化的条件）。

以下の三要素に分けて採点。満点（4点）内で、得点があれば要素点＋1点（要素が入っていなければ0点）。

①　「これらに一様性は潜在的にも実際的にも見出されえず、」（1点）

○「そこに一様性は潜在的にも顕在的にも発見できず、」「一様性は隠れた次元にも表面的にも見出されず、」などでも可○。

✖「一様性の潜在的かつ実際的な次元での否定」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②　「したがって資本と労働の分岐のみならず、基本的ないしは必要な諸財の交換こそが」（2点）

○「ゆえに資本と労働の分割のみならず、基本的あるいは必須不可欠の諸財の交換こそが」「したがって資本と労働の分離だけでなく、根本的かつ必要不可欠な財の交換こそが」などでも可○。

▲「資本と労働の分岐」と「基本的ないしは必要な諸財の交換」のニュアンスの二成分必要。どちらが抜けている場合は▲1点減点。

③「このシステムを統合しているということ。」（1点）

✖「システムの統合」のニュアンス成分が入っていなければ✖。

問３　12点

（模範解答例）

Ａ○２点

一九世紀から二〇世紀前半のモダニズム建築において、〈Ａ２点〉

Ｂ①○１点　Ｂ②○１点

美学を装飾に求めず、　形態を機能に従わせ、　〈Ｂ２点〉

Ｃ○２点　Ｘ〈分析〉（ＡかＢ）＋Ｃに○＋１点

さらに機能的なものに美を見出して、〈Ｃ２点〉

Ｄ①○２点　Ｄ②○２点

建築空間をリビング、ダイニング、キッチン等に、「機能」ごとに分けていく方法と考え方。〈Ｄ４点〉

Ｙ〈総合〉Ｄに○＋１点

（内容【10点】＋構造【２点】＝12点）

【構造点】

☆　Ｘは、傍線部の「機能主義」を説明すべく、話題のＡを、〈矛盾〉しない二条件Ｂ、Ｃに〈分析＝分けること〉して説明してゆく構造への評価である。ここでは、条件Ａ、条件Ｂの要素、条件Ｃのうち二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして１点加点。

Ｘ〈分析＝分けること〉　〈Ａ、Ｂの要素、Ｃ〉のうち二種二つ以上　○１点

☆　Ｙは、Ｂ、Ｃをまとめて、具体的ではあるが、Ｄに〈総合＝まとめること〉して結論づける構造への評価である。ここではＤの要素があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして１点加点。

Ｘ〈総合＝まとめること〉　Ｄの要素　○１点

◎　採点のポイント

※内容点（10点）の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】Ｘ・Ｙ（各１点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

Ａ「一九世紀から二〇世紀前半のモダニズム建築において、」〈２点〉

※傍線部を説明するための話題の条件。

○「一九世紀から二〇世紀前半にかけてのモダニズム建築では、」「一九世紀～二〇世紀前半のモダニズム建築にあっては、」などでも可○。

▲「一九世紀から二〇世紀前半にかけて」、もしくは「モダニズム建築」のどちらかの成分が抜けている場合、▲１点減点。

Ｂ「美学を装飾に求めず、形態を機能に従わせ、」〈２点〉

※　傍線部を説明すべく、Ａを説明する一方の条件（機能主義中心）。

①「美学を装飾に求めず、」（１点）

○「装飾の美学を追求するのではなく、」「装飾の美を追い求めるのではなく、」などでも可○。

✖「美学を装飾に求める」の否定のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②「形態を機能に従わせ、」（1点）
○「形態を機能に結びつけ、」「機能が形態を決定するとし、」などでも○可。
✖「形態を機能に従わせる」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

C「さらに機能的なものに美を見出して、」〈2点〉
※ 傍線部を説明すべく、Aを説明する他方の条件（美（学）中心）。
○「また『機能主義』から美が生まれるとみなして」「さらに機能こそが美しいと考え、」などでも可○。
▲「機能（的）」もしくは「美（学）」のどちらかの成分が抜けて入れば▲1点減点。

D「建築空間をリビング、ダイニング、キッチン等に「機能」ごとに分けていく方法と考え方。」〈4点〉
※ B、Cをまとめて具体的に結論づける条件。

①「建築空間をリビング、ダイニング、キッチン等に」（2点）。
○「建築空間をリビング、ダイニングなどに」「建築空間をリビング、ベッドルーム等に」などでも可○。
✖「建築空間」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。
▲「リビング、ダイニング、キッチン、トイレ、バス、ベッドルーム」などの具体名が含まれていなければ▲1点減点（一つでも含まれていればOK）。

②『機能』ごとに分けていく方法と考え方。」（2点）
○「機能に沿って分離していく実践的な手法。」「機能に応じて分割するやり方。」などでも可○。
✖「機能ごとに分割」の要素が無ければ✖。
▲「方法または考え方（の少なくとも一方）」のニュアンスが含まれていなければ▲1点減点。

問4　10点

（模範解答例）

A①○2点　A②○1点
時間が一分、　さらに一秒へと分割されたように、〈A3点〉
B①○1点　B②○2点
「分業制」＝「機能主義」によって　職業が銀行員、会社員等に分割され、
B③○1点
さらに例えば会社員が経営陣、営業課等に専門分業化されて〈B4点〉X〈分析〉A＋B→＋1点
C○1点
生産作業の効率化が推進されていったということ。〈C1点〉Y〈総合〉C○→＋1点

（内容【8点】＋構造【2点】＝10点）

【構造点】
☆ Xは、傍線部を、Aの「時間の分割」と、Bの「機能主義」における「分業制」の、比喩的な（類比的な）二条件に〈分析＝分けること〉して説明してゆく構造への評価である。ここでは、Aの要素とBの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。
【X〈分析＝分けること〉　Aの要素＋Bの要素　○1点】

☆Yは、A、BをCに〈総合＝まとめること〉して結論づける構造への評価である。ここでは、条件Cがあれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

【Ｙ〈総合＝まとめること〉　Ｃ　○1点】

◎　採点のポイント

※内容点（8点）の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】Ｘ・Ｙ（各1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

Ａ「時間が一分、さらに一秒へと分割されたように、」〈3点〉

※　傍線部の説明をするための一方の条件（時間）。

①　「時間が一分、」（2点）。

○「時間が一分」のニュアンスで○。

▲「時間が」もしくは「一分」のどちらかのニュアンスが無い場合は▲各1点減点

②　「さらに一秒へと分割されたように、」（1点）

○「そして一秒へと細分化されるように、」「さらに秒単位に分けられるように」などでも可○。

✖「一秒への分割」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

Ｂ「『分業制』＝『機能主義』によって職業が銀行員、会社員等に分割され、さらに例えば会社員が経営陣、営業課等に専門分業化されて、」〈4点〉

※　傍線部の説明をするための他方の条件（分業）。

以下の三要素に分けて採点。満点（4点）内で、得点があれば要素点＋1点（要素が入っていなければ0点）。

①「『分業制』＝『機能主義』によって」（1点）

○「『分業制』つまり『機能主義』において」「『分業制』という『機能主義』のために」などでも可○。

✖「『分業制』または『機能主義』」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②「職業が銀行員、会社員等に分割され、」（2点）

○「職業が銀行員、官僚、教員などに分けられ、」「職業が銀行員、医師などに分業化され、」

✖「職業」のニュアンスの成分、また「銀行員、官僚、教員、建設業、料理人、商社マン、医師、弁護士、経済学者、政治家、文学者、芸術家、哲学者、服飾デザイナー、美容師」などの具体名が一つ入っていないと✖（一つでも入っていればＯＫ）。

③「さらに例えば会社員が経営陣、営業課等に専門分業化されて、」（1点）

○「さらに会社員が企画課、営業課など細かい専門職に細分化されて、」「その上例えば会社員が経営陣、経理課などに専門分化されて、」などでも可○。

✖「会社員」、及び「経営陣、企画課、営業課、総務課、経理課、人事課等の中の少なくとも一つ」がはいっていないと✖（一つでも入っていればＯＫ）。

Ｃ「生産作業の効率化が推進されていったということ。」〈1点〉

※　Ａ、Ｂをまとめて結論づける条件。

○「生産が合理化されていったということ。」「生産作業の業績拡大が図られていったということ。」などでも可○。

✖「生産（作業）の効率化」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

問5　10点

（模範解答例）

A①○1点　A②○1点　A③○2点

資本主義が、　神の時間を崩壊させ、　商人の時間を樹立するのに一〇〇〇年かかり、〈A4点〉

B○2点

またその時間になって五〇〇年しか経ていないため、〈B2点〉X〈分析〉A○B○→＋1点

C①○1点　C②○1点

代替する時間概念を　早急に構築するのは困難だから。〈C2点点〉Y〈総合〉C○→＋1点

（内容【8点】＋構造【2点】＝10点）

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由説明を、「神の時間」に関わる条件Aと、「商人の時間（資本主義の時間）」に関わる条件Bという〈矛盾〉しない二条件に〈分析＝分けること〉して説明して行く構造への評価である。

ここでは、条件Aの要素が一つ以上、それに条件Bがあればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

【X〈分析＝分けること〉　A○B○→＋1点】

☆Yは、A、BをCに〈総合＝まとめること〉して結論づける構造への評価である。ここでは条件Cの要素が一つでもあればこの構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

【X〈総合＝まとめること〉　Cの要素○→＋1点】

◎　採点のポイント

※内容点（6点）の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y（各1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「資本主義が、神の時間を崩壊させ、商人の時間を樹立するのに一〇〇〇年かかり、」〈4点〉

※　傍線部の理由説明をするための一方の条件（神の時間）。

満点（4点）内で、得点があれば要素点＋1点（要素が入っていなければ0点）。

①「資本主義が、」（1点）

✖「資本主義」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②「神の時間を崩壊させ、」（1点）

○「神の時間を解体し」、「神の時間を終わらせ、」などでも可○。

✖「神の時間の崩壊」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

③「商人の時間を樹立するのに一〇〇〇年かかり、」（2点）

○「商人の時間を成立させるのに一〇〇〇年を要し、」「商人の時間を確立するのに一〇〇〇年を経なければならず、」などでも可○。

✖「商人の時間の樹立に一〇〇〇年」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

B「またその時間になって五〇〇年しか経ていないため、」〈2点〉

※傍線部の理由説明をするための他方の条件（商人の時間）。

○「また商人の時間になって五〇〇年が経過したにすぎないため、」「また商人の時間の時代になってまだ五〇〇年にしかならないため、」などでも可○。

✖「その時間（＝商人の時間）になって五〇〇年」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

C　「代替する時間概念を早急に構築するのは困難だから。」〈2点〉

※　A、Bをまとめて結論づける条件。

①　「代替する時間概念を」（1点）

○「分業システムに替わる時間意識」「商人の時間に代替する時間概念」などでも可○。

✖「（商人の時間に）代替する時間概念」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②　「早急に構築するのは困難だから。」（1点）

○「時間を早めて確立するのは難しいから。」「早期に作り上げるのは困難だから。」など○。

✖「早急な構築は困難」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

問6　8点

（模範解答例）

A①○1点　　A②○2点

資本主義の終焉は、歴史、地球、人間の終りを意味せず、〈A3点〉

B○2点　　X〈分析〉A○B○→＋1点

またその登場も意外だったのだから、〈B2点〉

C○1点

同様に新システムも出現しうること。〈C1点〉Y〈総合〉C○→＋1点

（内容【6点】＋構造【2点】＝8点）

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、「資本主義」に関する〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析＝分けること〉していく構造への評価である。ここでは条件Aの要素が少なくとも一つと、条件Bがそろっていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

【X〈分析＝分けること〉　Aの要素＋B　○1点】

☆Yは、A、BをCに〈総合＝まとめること〉して結論づける構造への評価である。ここではCがあれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

【Y〈総合＝まとめること〉　C　○1点】

◎　採点のポイント

※内容点（6点）の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X・Y（各1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A　「資本主義の終焉は、歴史、地球、人間の終わりを意味せず、」〈3点〉

※傍線部を説明すべく、「資本主義」を説明してゆく一方の条件。

①「資本主義の終焉は、」（1点）

○「資本主義の終りは、」「資本主義の終末は、」などでも可○。

✖「資本主義の終焉」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②「歴史、地球、人間の終わりを意味せず、」（2点）

○「歴史や地球、人間の終焉を意味せず、」「歴史の終りも地球の終りも意味せず、人間の滅亡を意味するわけでもなく、」などでも可○。

✖「歴史、地球、人間の終り（の終り）」のいずれかのニュアンスの成分が入っていなければ✖（どれかが入っていればＯＫ）。

Ｂ「またその登場も意外だったのだから、」〈２点〉

※傍線部を説明すべく、「資本主義」を説明してゆく他方の条件。

○「またその起こり方も予期せぬ出来事だったので」「その誕生の仕方も予想外であったので、」などでも可○。

✖「（資本主義）の登場の意外性」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

Ｃ「同様に新システムも出現しうること。」〈１点〉

○「新しいシステムの出現も同じように考えられること。」「新システムの登場も同じように可能であること。」などでも可○。

✖「新システムの同様な出現」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

二　現代文（評論）採点基準（合計60点）

問1　8点

（模範解答例）

A①○1点　A②○1点　A③○1点

「ある」は存在に関わり、「なる」は時間に関わるという点で異なるが、〈A3点〉

X○〈逆説〉AとBに○→＋1点

B①○1点　B②○1点　B③○1点　B④○1点

「絶対的」な側面と「相対的」な側面を共有している点で似ているという関係にある。〈B4点〉

（内容【7点】＋構造【1点】＝8点）

【構造点】

☆Xは、傍線部にある「ある」と「なる」の関係を、「異なる」面でとらえる条件Aと、これに対して「似ている」面で捉える条件Bの〈矛盾〉する二条件を内包して説明していく〈逆説＝矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、Aの要素とBの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

【X〈逆説＝矛盾を含むこと〉　Aの要素＋Bの要素○→＋1点

◎　採点のポイント

※内容点（7点）の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X（1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A『『ある』は存在に関わり、『なる』は時間に関わるという点で異なるが、』〈3点〉

※　傍線部の「ある」と「なる」の関係を説明するための〈異なる〉面の条件。

満点（3点）内で、得点があれば要素点＋1点（二要素以上あれば3点、一要素であれば2点、要素が入っていなければ0点

①『『ある』は存在に関わり、』（1点）

○『『ある』は存在の次元に関与し」『『ある』は存在に言及し」などでも可○。

✖『『ある』は存在に関わる」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②　『『なる』は時間に関わるという点で』（1点）

○『『なる』は時間の次元に関与し」『『なる』は時間に言及し」などでも可○。

✖『『なる』は時間に関わる」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

③　「異なるが、」（1点）

○「違うが、」「異質であるが、」「対比の関係にあるが、」などでも可○。

✖「異なる」のニュアンスの成分が入っていなければ✖0点。

B「「絶対的」な側面と「相対的」な側面を共有している点で似ているという関係にある。」〈4点〉

※　傍線部の「ある」と「なる」の関係を説明するための〈似ている〉面の条件。

満点（4点）内で、得点があれば要素点＋1点（三要素以上あれば4点、二要素あれば3点、一要素であれば2点、要素が入っていなければ0点）

①　『『絶対的』な側面と』（1点）

✖『『絶対的』な側面」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②『『相対的』な側面を』（1点）

✖『『相対的』な側面」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

③「共有している点で」（1点）
○「分有している点で」「同様に持つ点で」などでも可○。
✖「共有」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。
④「似ているという関係にある。」（1点）
○「同質だという関係にある。」「類比の関係にある。」などでも可○。
✖「似ている」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

問2　11点

（模範解答例）

A①○1点　A②○1点　A③○1点
未来からやって来た　具体的な何かが　現在の「中身」になることで、〈A3点〉
B①○1点　B②○1点
例えばサッカー日本代表は　延長戦に入る、勝つ、あるいは負ける可能性があったが、〈B2点〉
C○1点　X〈逆説〉ABCの2種以上に○→＋1点
その選択肢の中の「負ける」だけが現実化したように、〈1点〉
D①○1点　D②○1点　D③○1点
選択肢の中の「中身の比較」によって　「なる」というものが捉えられる　側面。〈D3点〉
Y○〈総合〉Dが○→＋1点

（内容【9点】＋構造【2点】＝11点）

【構造点】
☆Xは、傍線部を説明すべく、前提的な条件Aを、「可能性」の多様なことを示す条件Bと、「現実」は一様であることを示す条件Cを〈矛盾〉する形で抱え込む〈逆説＝矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、Aの要素、Bの要素、それに条件Cの要件内の二種以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。
【X〈逆説＝矛盾を含むこと〉　〈A、B、C〉の要件内の二種以上　○→＋1点】

☆Yは、条件B、Cを、条件Dに概念化して〈総合＝まとめること〉する構造への評価である。ここでは、条件Dの要素があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。
【Y〈総合＝まとめること〉　Dが○→＋1点】

◎　採点のポイント
※内容点（9点）の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X（1点）・Y（1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。
A「未来からやって来た具体的な何かが現在の「中身」になることで、」〈3点〉
※　傍線部の説明をするための話題の条件。
満点（3点）内で、得点があれば要素点＋1点（二要素以上あれば3点、一要素であれば2点、要素が入っていなければ0点
①「未来からやって来た」（1点）
○「未来から引き寄せられた」「未来から招来された」などでも可○。

✖「未来から来る」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②「具体的な何かが」（1点）

○「具体的な結果が」「具体的な事柄が」などでも可○。

✖「具体的な何か」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

③「現在の『中身』になることで、」（1点）

○「現実の内容となることで、」「現在の『中身』の姿をとることで、」などでも可○。

✖「現在の『中身』」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

B「例えばサッカー日本代表は延長戦に入る、勝つ、あるいは負ける可能性があったが、」〈2点〉

※ 傍線部の説明をすべく、Aを説明してゆく「可能性」の具体的な条件。

①「例えばサッカー日本代表は」（1点）

✖「サッカー日本代表」の成分が入っていなければ✖。

②「延長戦に入る、勝つ、あるいは負ける可能性があったが、」（1点）

✖「延長戦に入る、勝つ、負ける」のニュアンスの内の二成分が入っていなければ✖。

C「その選択肢の中の『負ける』だけが現実化したように、」〈1点〉

※傍線部の説明をすべく、Aを説明してゆく「現実化」の具体的な条件。

○「その中の『負ける』だけが現在の『中身』となったように、」「その中から『負ける』のみが現在の『中身』になったように」などでも可○。

✖「『負ける』だけが現実化」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

D「選択肢の中の『中身の比較』によって『なる』というものが捉えられる側面。」〈3点〉

※B、Cをまとめて結論づける条件。

満点（3点）内で、得点があれば要素点＋1点（二要素以上あれば3点、一要素であれば2点、要素が入っていなければ0点

①「選択肢の中の『中身の比較』によって」（1点）

○「選択肢中の『中身の比較』を通して」「選択肢の中の『中身』を比べることによって」などでも可○。

✖「選択肢中の『中身の比較』」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②「『なる』というものが捉えられる」（1点）

○「『なる』を考察する」「『なる』を把握する」などでも可○。

✖「『なる』を捉える」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

③「側面。」（1点）

✖「側面。」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

問3　11点

（模範解答例）

A○1点

「中身の比較」では捉えられない性質であり、〈A1点〉

B①○1点　B②○1点

例えばサッカー日本代表の結果については、そのような結果になるものこそが

B③○1点

そのような結果になるというように、〈B3点〉　X〈分析〉（AかB）＋Cの要素の○→＋1点

C①○1点　C②○1点

「中身」とは無関係に「そのようになる」の「構造」のみから導かれ、〈C2点〉

D①○1点　D②○1点　D③○1点

つまり未来が現実になるときには　ただそのようになるという　側面。〈D3点〉

Y〈総合〉Dに○→＋1点

（内容【9点】＋構造【2点】＝11点）

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、前提的条件であるAを、サッカー日本代表に関する「具体的」内容であるBと、それを「概念化」したCの〈矛盾〉しない領域にある二条件に〈分析＝分けること〉する構造への評価である。ここでは、〈A、Bの要素、Cの要素〉の要件内の二種以上があれば、この構造の骨組みが成立しているともなして1点加点。

【X〈分析〉　〈AかBの要素1つ以上＋Cの要素〉○→＋1点】

☆Yは、B、CをDに〈総合＝まとめること〉して結論づける構造への評価である。ここではDの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているともなして1点加点。

【Y〈総合〉　Dの要素に○→＋1点】

◎　採点のポイント

※内容点（9点）の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X（1点）・Y（1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A『中身の比較』では捉えられない性質であり、」〈1点〉

※　傍線部を説明するための前提的な条件。

○『中身の比較』からは導かれない質であり、」『中身』を比べることには無関係な性格であり、」などでも可○。

✖『中身の比較』で捉える」の否定のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

B「例えばサッカー日本代表の結果については、そのような結果になるものこそがそのような結果になるというように、」〈3点〉

※　傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく一方の条件（具体的）。

満点（3点）内で、得点があれば要素点＋1点（二要素以上あれば3点、一要素であれば2点、要素が入っていなければ0点

①「例えばサッカー日本代表の結果については、」（1点）

○「サッカー日本代表の試合結果のように」「例えばサッカー日本代表の成績では」などでも可○。

✖「サッカー日本代表の結果」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②「そのような結果になるものこそが」（1点）

○「そうした結果であるものこそが」「まさにその結果であるものが」などでも可○。

✖「そのような結果であるもの」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

③「そのような結果になるというように、」（1点）

○「そうした結果になるものであるというように」「そうした結果になるというふうに」などでも可○。

✖「そうした結果になる」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

C『中身』とは無関係に『そのようになる』の『構造』のみから導かれ、」〈2点〉

※　傍線部を説明すべく、Aを説明してゆく他方の条件（概念的）。

①『中身』とは無関係に」（1点）
○「『中身』には関係なく、」「『中身』に関わらず、」などでも可○。
✖「『中身』には無関係」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。
②『『そのようになる』の『構造』のみから導かれ、」（1点）
○「もっぱら『そのようになる』構造から導かれ、」「『そのようになる』の『構造』によってのみ決定され、」などでも可○。
✖「『そのようになる』の『構造』のみが導く」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

D「つまり未来が現実になるときにはただそのようになるという側面。」〈3点〉
※ B、Cをまとめて結論づける条件。
満点（3点）内で、得点があれば要素点＋1点（二要素以上あれば3点、一要素であれば2点、要素が入っていなければ0点

①「つまり未来が現実になるときには」（1点）
○「要するに未来が現実化するときには」「つまり未来が現実として現れるときには」などでも可○。
✖「未来の現実化」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。
②「ただそのようになるという」（1点）
○「ひたすらそのようになるという」「そのようにしかなりようがないという」などでも可○。
✖「ただそのようになる」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。
③「側面。」（1点）
✖「側面。」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

問4　10点

（模範解答例）

A①○1点　A②○1点
「このようなものになる」という　「なる」の相対的な側面と、〈A2点〉
X〈逆接〉AとB両方に○→＋1点
B①○1点　B②○1点　B③○1点　B④○1点
その中身には無関係に　「なるものがなる」という　絶対的な側面が　競合しながら〈B4点〉
C①○1点　C②○1点
合体して、　「なるようになる」次元に達すること。〈C2点〉
Y〈弁証法〉Cが○→＋1点

（内容【8点】＋構造【2点】＝10点）

【構造点】
☆Xは、傍線部を、まずは「相対的な側面」の条件Aと、B、「絶対的な側面」の条件Bの〈矛盾〉する二条件を組み込んで説明して行く〈逆説＝矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、Aの要素、とBの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。
X〈逆説＝矛盾を含むこと〉　Aの要素＋Bの要素　○1点

☆Yは、A、Bの〈矛盾（衝突）〉する二条件を止揚してCに到達する〈弁証法＝創造すること〉の構造への評価である。ここでは、条件Cの要素があれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているとみなして1点加点。
Y〈弁証法＝創造すること〉　Cの要素　○1点

◎　採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X（1点）・Y（1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「「このようなものになる」という「なる」の相対的な側面と、」〈2点〉

※　傍線部を説明するための一方の条件（契機）。

①「このようなものになる」という」（1点）

○『このようなもの』に『なる』という」「こうしたものになるという」などでも可○。

✖『このようなものになる』のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②「「なる」の相対的な側面と、」（1点）

○『なる』の持つ相対的な面と、」『なる』に含まれる相対的な測面と、」などでも可○。

✖『なる』の相対的な側面」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

B「その中身には無関係に『なるものがなる』という絶対的な側面が競合しながら」〈4点〉

※　傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件（契機）。

満点（4点）内で、得点があれば要素点＋1点（三要素以上であれば4点、二要素であれば3点、一要素であれば2点、要素が入っていなければ0点）

①「その中身には無関係に」（1点）

○「その中身には関係なく」「その中身に関わらず」などでも可○。

✖「中身には無関係」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②『『なるものがなる』という」（1点）

✖『『なるものがなる』』のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

③「絶対的な側面が」（1点）

✖「絶対的な側面」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

④「競合しながら」の要素。

○「ぶつかり合いながら」「衝突しながら」などでも可○。

✖「競合」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

C「合体して、『なるようになる』次元に達すること。」〈2点〉

※A、Bの〈矛盾〉を止揚して到達した次元を表す条件。

①「合体して、」（1点）

○「統合されて、」「止揚されて、」などでも可○。

✖「合体」のニュアンスの成分が入っていなければ✖」。

②　『『なるようになる』次元に達すること。」（1点）

✖『『なるようになる』』のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

問5　11点

（模範解答例）

A①○1点　A②○1点
「なるようになるさ！」という　日常語は、〈A2点〉
B○1点
「一見意味不明の語句表現であるが、〈B1点〉
C①○1点　C②○1点　C③○1点
この言葉の中には、「なる」についての　「絶対的」な側面と　「相対的」な側面の
C④○1点
絡み合いが見事に表現されており、〈C4点〉　X〈逆説〉Aに○＋（BかCに○）→＋1点
D①○1点　D②○1点
そのことを私たちが直観的に　理解しえているから。〈D2点〉
Y〈総合〉Dに○→＋1点

（内容【9点】＋構造【2点】＝11点）

【構造点】

☆Xは、傍線部の理由を、話題のAを、B、Cの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明してゆく〈逆説＝矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、〈Aの要素、B、Cの要素〉の要件の内の二種二つ以上があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

X〈分析＝分けること〉　Aに○＋（BかCのうち1つ以上に○）→＋1点

☆Yは、B、CをDに〈総合＝まとめること〉していく構造へ評価である。ここではDの要素があれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加点。

Y〈総合＝まとめること〉　Dに○→＋1点

◎　採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X（1点）、Y（1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A『なるようになるさ！』という日常語は、」〈2点〉

※　傍線部の理由説明をするための話題の条件。

①　『なるようになるさ！』という」（1点）

✖『なるようになるさ！』のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②　日常語は、」（1点）

○「日常的な言い方は、」「普段の言葉遣いは、」などでも可○。

✖「日常語」のニュアンスの成分がなければ✖。

B「一見意味不明の語句表現であるが、」〈1点〉

※　傍線部の理由説明をすべく、Aを説明していく譲歩の条件。

○「表面上は意味の通らない表現であるが、」「一見するとわけの分からない言い方だが、」などで○。

✖「一見意味不明」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

C「この言葉の中には、『なる』についての『絶対的』な側面と『相対的』な側面の絡み合いが見事に表現されており、」〈4点〉

※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明していく、Bとは〈矛盾〉する条件。以下の四要素に分けて採点。満点（4点）内で、得点があれば要素点＋1点（三要素以上があれば4点、二要素で3点、一要素であれば2点、要素が入っていなければ0点。）

①「この言葉の中には、『なる』についての」（1点）

○「この言葉遣いには、『なる』に関する」「この表現の中には、『なる』関わる」などでも可○。

✖「（この言葉の中の）『なる』についての」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②『『絶対的』な側面と」（1点）

✖『『絶対的』な側面」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

③『『相対的』な側面の」（1点）

✖『『相対的』な側面」のニュアンスの成分がなければ✖。

④「絡み合いが見事に表現されており、」（1点）

○「せめぎあいが巧みに表現されており、」「交錯がうまく表現されており、」などでも可○。

✖「絡み合いを表現」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

D「そのことを私たちが直観的に理解しえているから。」〈2点〉

①「そのことを私たちが直観的に」（1点）

○「その事実を私たちが暗黙の内に」「そのことを私たちが直覚的に」などでも可○。

✖「そのことを私たちが直観」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②「理解しえているから。」（1点）

○「了解しているから。」「分かっているから。」などでも可○。

✖「理解」のニュアンスの成分がなければ✖。

問6　9点

（模範解答例）

A○1点

「なるようになる」を〈A1点〉

B○1点

「あるようにある」と〈B1点〉

C①○1点　C②○1点　C③○1点

X〈逆説〉AとBが○→＋1点

合体させて、「運命」というものを正しくとらえた最終的な定式ともいうべき、

C④○1点　C⑤○1点

「あるようにあり、なるようになる」という地点。〈C5点〉

Y〈総合〉C○→＋1点

（内容【7点】＋構造【2点】＝9点）

【構造点】

☆Xは、傍線部を説明すべく、A、Bの〈矛盾（交錯）〉する条件をぶつけていく〈逆説＝矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、Bがそろっていれば、この構造が成立しているとみて1点加点。

X〈逆説＝矛盾を含むこと〉　A＋B　○1点

☆Yは、A、B二条件の〈矛盾〉を止揚してCに至る〈弁証法＝創造すること〉の構造への評価である。ここでは、Cの要素があれば、この構造の骨組みが暗黙裡に成立しているとみなして1点加点。

Y〈弁証法＝創造すること〉　Cの要素　○1点

◎　採点のポイント

※内容点の採点のポイントは以下のとおり。ただし、【構造点】X（1点）・Y（1点）は、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。

A「『なるようになる』を、」〈1点〉

※　傍線部を説明するための一方の条件（契機）。

✖「『なるようになる』」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

B「『あるようにある』と」〈1点〉

※　傍線部を説明するための他方の条件（契機）。

✖「『あるようにある』」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

C「合体させて、『運命』というものを正しくとらえた最終的な定式ともいうべき、「あるようにあり、なるようになる」という地点。」〈5点〉

※　A、Bの〈矛盾〉を止揚して到達する地平の条件。以下の五要素に分けて採点。満点（5点）内で、得点があれば要素点＋1点（四要素以上があれば5点、三要素あれば4点、二要素あれば3点、一要素であれば2点、要素が入っていなければ0点。）

①「合体させて、」（1点）

○「止揚させて」「統一させて」などでも可○。

✖「合体」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

②「『運命』というものを」（1点）

✖「『運命』」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

③「正しくとらえた最終的な定式ともいうべき、」（1点）

○「適正に捉えた最終的の定式である、」「正しく表現した究極の定式というべき、」などでも可○。

✖「正しい最終的定式」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

④「『あるようにあり、なるようになる』という」（1点）

✖「『あるようにあり、なるようになる』」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

⑤「地点。」（1点）

✖「地点」のニュアンスの成分が入っていなければ✖。

○「ある」「なる」の使い方に若干問題はあるがこの設問では無視できるとみなして、AB共に○。

○A、B共に生きているので、X〈逆説〉の構造は成立しており○1点。

✖C①を不注意にも欠き✖。A内の「合体」は次元が異なるので援用できない。

○条件Cは四要素なので、採点基準の規定により5点。

○Cの要素はあるので、Y〈弁証法〉の構造の骨組みは成立しており○1点。